

令和7年度 都立高入試 配点について

都立高入試の予想得点の算出にあたりまして、弊社が予想いたしました配点をお知らせいたします。

国語 ー記述問題の配点についてー

4〔問5〕200字課題作文

●配点…10点

●採点方法

- 記述問題が200字作文1問だけであるため、採点は複数の先生が行い、互いにチェックする形になると思われます。「○○について××が書かれている。」のような具体的な基準を各校が定め、段階的に点数を設定していると想定されます。

〈内容〉については下記のような配点がされていると思われます。

- 自分の意見、主張があるか…4点
- 筆者の主張を踏まえているか…3点
- 具体的な体験や見聞があるか…3点

これらの項目について不備がある場合は、各配点の範囲で減点されると思われます。ただし、全体として論旨に一貫性のないものや、本文の抜き出し・要約になっているものは減点されると思われます。

- さらに、下記のような形式面で、減点されると思われます。

〈表記〉

句読点の誤り、誤字、脱字、衍字(=余計な字)／最後の一文が途中で終わっている／字数に過不足がある
〈言葉の特徴やきまり〉

常体と敬体の不統一／書き言葉としてふさわしくない／語句の意味や用法・文法上の誤りがある 等

数学 ー記述問題の配点についてー

●配点…各7点

●採点方法

- 模範例についての予想配点です。各学校によって違いはありますが、部分点があると思われます。

2〔問2〕

b を a を用いた式で表すと、
 $b = a + 12$
 d を c を用いた式で表すと、
 $d = c + 12$
よって、
$$P = \frac{a + b + c + d}{4} = \frac{a + c + 12}{2}$$
 $24P = 24 \times \frac{a + c + 12}{2} = 12a + 12c + 144 \dots\dots\dots (1)$ また、
$$Q = bd - ac = (a + 12)(c + 12) - ac = 12a + 12c + 144 \dots (2)$$
(1), (2)より、 $Q = 24P$

- 24Pを、 a または b 、 c または d を用いて表すことができ、4点と思われます。ただし、 a と b の関係を表す式ができて、1点、 c と d の関係を表す式ができて、1点、Pを、 a または b 、 c または d を用いて表すことができ、1点の部分点があるものと思われます。
- Qを、 a または b 、 c または d を用いて表すことができ、3点と思われます。
- 誤字・脱字が1か所以上あると、1点減点になると思われます。

4〔問2〕①

$\triangle APR$ と $\triangle AQR$ において、
共通な辺だから、
 $AR = AR \dots\dots\dots (1)$
仮定から、
 $AP = AQ \dots\dots\dots (2)$
仮定から、
 $\widehat{BR} = \widehat{QR}$
等しい弧に対する円周角は等しいから、
 $\angle PAR = \angle QAR \dots\dots\dots (3)$
(1), (2), (3)より、2組の辺とその間の角がそれぞれ等しいから、
 $\triangle APR \equiv \triangle AQR$

- (1), (2), (3)のうち、1つが書けていれば2点、2つが書けていれば4点、3つが書けて6点になると思われます。
- (1), (2), (3)の式の根拠に不備がある場合は、それぞれの式において減点が行われるものと思われます。
- (1), (2), (3)は順不同でもよいと思われます。
- 合同条件ができていれば1点と思われます。
- 合同条件は、「2辺挟角相等」などでもよいと思われます。
- 誤字・脱字が1か所以上あると、1点減点になると思われます。

英語 一条件英作文の配点について一

●配点…12点

●採点方法

- ・各学校によって違いはありますが、文法面とともに内容面を重視して採点すると思われます。
- ・今年も、空所の前後につながるように英文3文を記入してメール文を完成させる形式が出題されています。今年も、もっと練習したいことを友人に伝える設定となっています。まず具体的なもっと練習したいことを1つ示したあと、その理由や関連する内容等を示す文章を続ける解答となるとと思われます。時制面では、幅広い時制の文が認められると思われます。
- ・学校によっては、つづり字等の表記上の誤りがあれば、各文1～3点の減点があると思われます。ただし、同じ誤りを何度も繰り返したような場合は、全体で何点の減点というような配慮がなされると思われます。

社会 一記述問題の配点について一

●配点…各5点

●採点方法

- ・[3]〔問3〕 まず、問題文に「Ⅰ～Ⅲの資料から読み取れる、Ⅲが実施された後の観光地Aと観光地Bの間を移動する場合の交通の利便性の変化について」、「Ⅲが実施される前と比較し」、「移動手段に着目して」、簡単に述べよと書かれていることをおさえます。Ⅰ～Ⅲの資料を合わせて、Ⅲが実施される前の状況を見ると、観光地Aから観光地Bへ移動するには、観光地Aから阿字ヶ浦駅まで鉄道で移動した後に、バスに乗り換えて観光地Bの西口まで移動するか、徒歩によって観光地Bの南口まで移動しなければならないことがわかります。一方、Ⅲが実施された後の状況を見ると、鉄道が延伸されて観光地Bの南口付近に新駅が建設されることで、観光地Aから観光地Bまで鉄道で直接移動できるようになり、交通の利便性が高まっていることがわかります。これらのことから、「Ⅲが実施された後は、観光地Bの南口付近に建設された新駅を利用できるようになることから、鉄道で観光地Aと観光地Bの間を移動する場合の交通の利便性が高まる」ことを簡単にまとめていけば、正答となるとと思われます。
- ・[4]〔問3〕 まず、問題文に「日本から出品された絵画の出品数の変化について」、「ⅠとⅡの資料を活用し」、「政府が設置した学校に着目して」、簡単に述べよと書かれていることをおさえます。Ⅰの資料を見ると、1867年のパリ万国博覧会の開催後、1889年に政府が設置した東京美術学校が開校し、絵画科において日本画の指導が行われたこと、1896年に東京美術学校に西洋画科が加えられたこと、1900年に再びパリ万国博覧会が開催されたことがわかります。Ⅱの資料を見ると、1867年のパリ万国博覧会では浮世絵が100点出品されたこと、1900年のパリ万国博覧会では浮世絵の出品が0点になった一方で、日本画92点、西洋画37点が出品されたことがわかります。これらのことから、「政府が設置した学校において日本画や西洋画の指導が行われる中で、1867年の万国博覧会では全て浮世絵だった日本からの絵画の出品が、1900年は全て日本画と西洋画になった」ことを簡単にまとめていけば、正答となるとと思われます。
- ・[5]〔問4〕 まず、問題文に「ⅠとⅡの資料を活用し」、「今後の我が国の労働力の変化と、その変化の中で情報通信技術(ICT)に期待されることについて」、「我が国の人口の推移と、労働分野における情報通信技術(ICT)の利点に着目して」、簡単に述べよと書かれていることをおさえます。Ⅰの資料を見ると、一つ目の文から、人工知能(AI)やロボットなどの情報通信技術(ICT)の活用により、労働資源を効率的に配分することが期待されていることがわかります。また、二つ目の文から、テレワークやサテライトオフィスなどの情報通信技術(ICT)の活用により、場所の制約を受けずに就業する選択肢を広げることが期待されていることがわかります。Ⅱの資料を見ると、2020年以降に我が国の人口が大きく減少すると予測されていることがわかり、この人口の減少は、今後、我が国の労働力が大きく減少するという予想を伴うものであることが考えられます。これらのことから、「人口減少に伴う労働力の減少が予想される中で、情報通信技術(ICT)の活用により、労働資源を効率的に配分することや、場所の制約を受けずに就業する選択肢を広げることが期待されている」ことを簡単にまとめていけば正答となるとと思われます。

理科 一記述問題の配点について一

●配点…各4点

●採点方法

- ・⑤〔問1〕 酸化銀の分解の実験で、気体を集めた3本の試験管のうち、集め始めて1本目の試験管の気体を使わない理由を答える問題。酸化銀の分解の実験では、酸化銀が分解されて発生する気体が酸素であることを確かめます。しかし、始めのうちは酸化銀を入れて加熱している試験管Aや、試験管Aにつないだガラス管やゴム管の中に始めからある気体（空気）が多く出てきてしまっており、集め始めて1本目の試験管には、集めた発生した酸素ではなく、空気が多く集められてしまっていると考えられます。そのため、集め始めて1本目の試験管に集めた気体は使いません。指定語句が「試験管A」であることを踏まえまして、「1本目の試験管に集めた気体はほとんどが試験管A（など）にもとから入っていた空気（酸素の少ない気体）である」と書いていけば、正答になると思われます。
- ・⑥〔問4〕 抵抗器Xを1つだけつないでいた回路に、抵抗器Yを抵抗器Xに対して並列になるようにつないだ場合、同じ電圧を回路全体に加えたら、回路につないでいるプロペラ付きモーター内部の「コイルに流れる電流が磁界から受ける力」の大きさが抵抗器Xを1つだけつないでいた時とどう変化するかを、「コイルに流れる電流の大きさ」に着目して答える問題。抵抗器を並列につなぐと、回路全体の抵抗の大きさは抵抗器が1つの時に比べて小さくなります。そのため、抵抗器Xと抵抗器Yを並列につないだ回路（図7）における回路全体の抵抗の大きさは、抵抗器Xを1つだけつないだ回路（図1）における回路全体の回路の抵抗の大きさより小さいと考えられます。回路全体の抵抗の大きさが小さいということは、回路に流れる電流の大きさが大きいということです。図1の回路よりも図7の回路の時の方が、プロペラ付きモーター内部のコイルに流れる電流の大きさは大きくなります。さらに、コイルに流れる電流の大きさが大きくなると、コイルに流れる電流が磁界から受ける力も大きくなります。以上を踏まえまして、「(回路全体の抵抗が小さくなるから) (プロペラ付きモーターの内部の) コイルに流れる電流の大きさが大きくなる」ということを書いたうえで「(コイルに流れる) 電流が磁界から受ける力は大きくなる」ということが書いていけば、正答になると思われます。